

自転車事故が多い伊丹！対策は？！

3月議会で
質問！

■「自転車王国伊丹」は事故が多い！

「自転車王国」と言われる伊丹市。土地が比較的平坦であり、**自転車を利用される方が大変多い街**です。しかし同時に、**自転車に関する事故も多く**、H24年の自転車事故件数は500件(うち死者2名)。人口1万人あたり約25件で、県下最多となっています。みなさんも、歩いている時、自転車に乗っている時、車に乗っている時など、様々な場面で“ヒヤリ”とされたご経験があるのではないのでしょうか。**自転車の安全利用は、伊丹市にとって大きな課題**です。

■「自転車安全利用条例」を策定すべし！

そこで今回、私から提案したのが「**自転車安全利用条例**」の策定です。

これはその名の通り、“自転車を安全に利用しよう”という条例で、近年策定する自治体が増えています。東京都板橋区のH15年策定(区内での痛ましい死亡事故を受けて)を皮切りに、**現在3都道府県・20市町村が策定または策定予定**。近隣では宝塚が策定予定。内容は、**どこの自治体とも最初に“利用者の責務”を明確化し、その他は各自治体様々に独自のアイデアを取り入れています。**

「自転車安全利用条例」特徴一覧

自治体	安全	学校教育	財政措置	保険	ヘルメット	表彰	その他
板橋区	○			○		○	全国初
三鷹市	○	○		○			ボランティアと協働
京都市	○	○	○	○			商店街と連携
埼玉県	○	○	○	○	△		安全利用の日
浦安市	○	○		○	○	○	推進会議の設置
福岡市	○	△		○	△		押し歩き区間
摂津市	○	○		○	△		警察の検挙要請

※3都道府県・20市町村が策定(策定予定)・その中から独自で特徴的な自治体を抜粋

■市が姿勢を示すことに意義がある！

私は、条例策定の**最大メリットは、市が課題である自転車の安全利用について、“課題を憂慮し市として前向きに対策していく”という強い姿勢を条例で明確に提示すること**だと考えます。条例が存在することで、自転車安全利用の意識啓発についての契機にもつながります。

先行自治体を調べるといずれも、都市部で地形が平坦→自転車利用が多く事故も多発→安全対策が課題・・・伊丹と似ています。「伊丹で“自転車安全利用条例”を策定したい、策定しなくてどうする!」、そんな想いです。

■計画と検討委員会もつくりたい！

逆に懸念点は「**理念条例(抽象的な理想論のみで具体性に乏しい条例)にならないか**」「**どこまで罰則を盛り込めるか**」ということ。確かに道路交通法という上位法がある以上、条例で決められる事柄に限界はありますが、私は市の強い姿勢を条例で明確化することは有意義であると考えます。

また具体的な取り組みについては、条例に盛り込むことはもちろん、“**利用計画**”も同時策定したいところです。先行自治体では、理念を条例で、具体的な取り組みを計画でと、**ダブルで示しているところも多数**。伊丹でも、**条例と同時に計画もダブル施行**したい。また策定に当たっては、**市民を交えての検討委員会を発足させ、実際の生活を踏まえての現実性のある条例&計画**にしたいと考えます。

■事故を減らしていきたい！

上記内容を3月議会本会議で提案したところ、「検討する」との答弁。市長選前だったこともあり、即答で「やりましょう!」との答弁は難しかったのでしょうか。発言後、同僚議員などから「自分も賛成」との声もあり。今後も引き続き提案を重ねます。**自転車の安全利用に全力で取り組み、自転車事故を少しでも減らしていかなばと決意**しています。

サワコの茶話会 ~1回目盛況！2回目やります！~



お茶を飲みながらアットホームな雰囲気で見聞交換する「サワコの茶話会」。2月に実施した第1回は、大変活発な茶話会となりました。予定の2時間では全く足りないほどの盛況で、心から感謝するばかりです。いただいたご意見の数々は、実際に3月議会でぶつけるなどさっそく市政に反映しています。2回目は下記の通り実施します。「前回参加して楽しかった!」今回は行ってみたい!様子を覗いてみたい!言いたいことがある!「相崎の意見を聞いてみたい!」・・・どなたでも大歓迎です。お気軽に足をお運びくださいませ!

~「サワコの茶話会」第2回~

日時:平成25年5月26日(日)13:00~15:00

場所:いたみホール5階 会議室1

内容:3月議会の報告・市長選を振り返ってなど

人数:20人

申込:名前&連絡先を電話・メールなどでお知らせを(連絡先は裏面)

※当日参加OK(人数把握のため事前にお知らせいただくと助かります)

※託児はありませんが子連れ大歓迎です!



ブログ毎日更新中！ 活動ニュース月刊発行中！
<http://sawako-aizaki.com>

どう整備する?! 保育所・幼稚園・こども園!

3月議会で
質問!

■伊丹市の「就学前施設」、アンバランスすぎる!

伊丹市が抱える大きな課題の1つが「就学前(小学校に入るまで)のこどもの施設のあり方」です。現状、下記のようなアンバランスが生じています。

- 保育所・・・例年4月時点では待機児童ゼロだった伊丹だが、本年4月は新保育所開設にもかかわらず33人発生。
- 公立幼稚園・・・1学年10人台など、園児数が減少している園も。少人数が悪いわけではないが維持は課題。
- 私立幼稚園・・・園によっては入園希望が殺到し、大変な抽選倍率に。希望園に抽選モレする家庭多数。

■本年度から議論が再スタート!

このように、伊丹市の就学前施設は現状、市民のニーズに体制がマッチしていません。平たく言えば、困っているご家庭がたくさんあるということ。

市も憂慮し、これまで様々な対策を講じてきましたが(保育所の増設、こども園の開設など)、未だアンバランスは解消されず、**長期的視野に基づく抜本的な改革が必須**です。ただこれまでは、国の方向性がはっきりせず、従って市も長期ビジョンの構築はお預け状態でした。しかし昨年夏に、いわゆる「子ども子育て関連3法」が可決成立し、市もいよいよH25年度から、国が指定するメニューを実行しながら、**市の就学前のこどもの施設のあり方について、議論を再スタート**することに。私も大変気合いが入っており、これまで何度も本会議で取り上げてきたテーマですが改めて3月議会で、担当各課に要望をぶつけました。

■こども未来部(保育所・こども園を管轄)→市独自のニーズを把握せよ!

こども未来部では、**国から「ニーズ調査をしろ」「新計画を立てろ」との指示**が来ています。これは実施せざるを得ない。ただ、就学前施設は地域によって実情と課題が異なるゆえ、私は**国指定の行程を実施しながらも、伊丹の独自色を入れることが肝要**と考えます。ニーズ調査はオリジナル項目を入れるなどして伊丹ニーズの的確な把握に努め、新計画は伊丹の課題を確実に解消できるものに練り上げねばなりません。

また待機児童対策は待ったなし。国指定の作業と同時進行で、**保育所増設は引き続き取り組まねばなりません**。

■教育委員会(幼稚園を管轄)→公立幼稚園の預かり保育・3年保育を!

教育委員会は、**本年度に「学校教育審議会」を設け、幼児教育のあり方を改めて検討**すること。私は審議会ではぜひ、「**公立幼稚園の①預かり保育②3年保育**」を前向きに検討してほしいと願っています。この2点は保護者ニーズが大変高いものの、伊丹では未実施。実施すれば「**公立幼稚園の園児数減少**」「**保育所の待機児童増加**」という**2大課題にも対応**できます。ぜひ進めたい。

■総務部(組織体制を管轄)→部署を横断しての専門チームを!

就学前施設のあり方で、ネックと言われているのが管轄の違い。現在、**幼稚園は文部科学省(市では教育委員会)・保育所は厚生労働省(市ではこども未来部)**と全く違う部署の管轄ですが、このご時世に現在の棲み分けには無理が生じています。**国では内閣府にて一本化して検討する方向性**。従って伊丹市も、総合的に担当する**専門チームを設置する時期**にきています。期待したいところ。

■ニーズにあった施設のあり方を!

上記の要望を3月議会でぶつけました。

とにかく本年度、改めて本格的な議論が各部署で再スタートします。**伊丹のすべてのこどもが、その子に・その家庭に最も適した就学前施設に通えるよう、施設の再整備に全力で取り組んでいきます**。ご期待ください。

実現

“児童くらぶ”携帯電話支給!

～「児童くらぶ」に携帯電話が支給されました!～

児童くらぶ(小学校の学童保育)は、これまで各くらぶに固定電話が1つあるだけでした。緊急時(例えば警報が出て緊急に休所になったり)は、いつも回線がパンク状態に。また下校に指導員が付き添った際は、個人携帯を使用してもらっていた実態も。

相崎は昨年6月議会で「各くらぶに1つは携帯電話を!」と提案。折しも質問当日、警報が出てくらぶは休所となり電話回線もパンクという、絵にかいたような緊急事態が。くしくも説得力のある提案となりました。

そして今回、**各児童くらぶに1つ携帯電話が支給**されました。これで固定電話と携帯電話の2つに。まだ完全とは言えませんが、児童が快適な時間を過ごし、保護者が安心して託せる児童くらぶへと充実させていきます。

実現

“たんぽぽ”相談員増加!

～「たんぽぽ」の相談員が1名増えました!～

“たんぽぽ”とは、子どもの発達上の悩みを相談できる施設。市役所南館の2階にある、相談と療育の場です。相談件数は増加の一途。月のべ80件の相談を、これまで相談員2名で対応しており、パンク状態でした。

相崎は、**昨年12月議会で「相談件数は急上昇中。相談員が足りていない!相談員増加は緊急事項!」**と発言。

そして今回、**H25年度から相談員が1人増えて3名体制**となりました。今後も、子どもの発達に寄与し、保護者の精神的負担を軽減すべく進めていきます。